

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	一宮市たけのこ園		
○保護者評価実施期間	2025年1月7日 ～ 2025年1月31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	47	(回答者数) 47
○従業員評価実施期間	2025年1月7日 ～ 2025年1月31日		
○従業員評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月21日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・職員がこどもへのかかわり方を保護者の前で実際に い様々な方法を共有できること。 ・就園前の懇談会や就園後の園訪問などで途切れの ない支援ができること。	・生活面は、排泄、衣服着脱時の声かけや手助けの 方法を保育士がこどもにかかわって見せたり、保 育士の視点だけでなく言語聴覚士、作業療法士、 音楽療法士からの視点でも助言したりしている。 ・アセスメントを丁寧に行い保護者の思いを大切 にしながらも、こどもの発達に合わせた支援計 画を作成し具体的に保護者にわかりやすい内容 にしている。	・保護者・こどものニーズに合わせた支援がで きるように、多職種の視点を踏まえた支援を示 していく。 ・就園前の懇談会を必要に応じて行い、就園 先へ伝える事を保護者と一緒に考え、各園によ って求められる事を念頭において助言をしてい く。就園先を考える時には保護者の要望を汲み 取りつつ、こどもに合っている場所を選択でき るように助言し最終的には保護者が決定でき るように支援をする。
2	・親子通園のため保護者の悩みを直ぐに聞いたり、 保護者も思いを伝えたり、相談しやすいこと。	・安心して相談できるように、日常会話の中から ニーズや困り事を汲み取り会話をするようにし ている。 ・職員が迅速な対応を周知し、保護者の表情や 様子、こどものかかわり等がいつもと違う時 には児発管(園長)に伝えるようにし、状況に よって別室で保護者から話を聞くようにして いる。	・保護者の相談内容を全職員で話し合い偏った 意見にならないようにしていく。また、花や 季節の飾り親子が過ごしやすい環境を整え、 安心して相談できる雰囲気作りを今後も継 続していく。
3	・毎日具体的な話し合い(活動プログラムの内 容、利用した親子の姿など)をしていること。 話し合いの中で必要に応じて療育内容を 変化させたり、子どもの姿に合わせたねらい をもった活動にしたりしていること。	・毎日の療育後に加え、必要に応じてその都 度話し合いをし、活動内容や職員の動きな どを構築している。全職員が同じ考え、ね らいを持って進めていけるようにしている。	・日々の評価反省を活かし、こどもの発達、 様子、状況を把握して療育内容を決定す る。全職員が共通理解できるようにホワイト ボードに活動のねらい、療育用具の設定図、 その他必要事項を記載する。 ・9月頃からは2クラスに分かれての療育に なるため、活動の方法が統一されるように確 認を密にしていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・親子に対しては、職員の人数は満たされて いるが、弟妹も同伴した時には、職員が足 りないと感じること。	・活動中はきょうだいをおんぶや抱っこをし てもらう必要があり、食事や排泄、戸外遊 び中など、保護者の負担が大きい。保育士 が弟妹を預かる時間もおり、きょうだ いが多い時には全体の安全も確保しながら 見ていくため職員の支援が薄くなることが ある。	・利用人数が増える後半は職員人数を増や すように職員増を要求していく。 ・安全面を考慮しながら、時間帯によ ってベビーゲートを使用し職員が見る時 間をつくる。
2	・他の施設やこどもと交流する機会がない こと。	・親子で利用している事や利用日が固定で はない事などから交流は難しい。	・市内保育園の園庭開放日を今後も掲 示していく。 幼稚園へは園庭開放日やプレ教室の内 容、日程を聞くなど保護者が直接、問 合わせることの助言する。
3	・建物の設備において、トイレは室内では あるが、構造上、夏は暑く、冬は寒い場 所にあること。	・トイレは、冷暖房がある部屋とは別場所 にある。扇風機、暖房器具の設置は安全 面から考えると難しい。着脱は室内で 行えるようにしているが、その場で着 脱できた方が親子にとっては行いやす い。手洗いの面から考えても動線が適 していない。	・エアコンの設置を考えたいが建物の構 造上難しいため、テラスのフェンスに ブラ段ボールを設置して、風や太陽を 少しでも遮断していく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		公表日				利用児童数		回収数	
一宮市たけのご園		2025年3月26日				47 (2025年1月31日時点)		47	
		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	40	6	0	1	・身体をのびのびと動かせるスペースがあり、こどももとても楽しんでいた。 ・利用人数に合わせて、クラスを移動して朝の会や帰りの会をしたり配慮もされている。 ・人数が多い時は狭く感じる時もある。	・玩具、用具の整理整頓を心掛け、こどもが安全にのびのびと過ごせるようにしていく。	
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	40	4	1	2	・一人ひとりにたくさんの職員がサポートしてくれ、とても安心できている。 ・少人数の時は良いが人数が増える色々な特性の子が多いので手が足りないのではと思う。 ・いざという時に声をかけられる職員が近くにいない時がたまにある。 ・基本は足りているが、忙しい時間帯だと少し声をかけにくい。	・毎朝の話し合いを細やかにしたり、職員間で声をかけあったりすることで、職員をよりよい状況に配置できるようにしていく。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	37	5	1	4	・遊ぶ時はサーキットが組んであったり、昼食時は机といすが並べてあったりなど、見てすぐ分かるためこどもの混乱なく活動できている。 ・動線が良くこどもの誘導がしやすかった。こどもに伝えやすい目印があるのも良かった。 ・TODOを絵で表現して視覚化するなど、分かりやすくなっている。	・用具、玩具の整理整頓を心掛け、一つ一つの物事に集中しやすい環境づくりに努めていく。またそれぞれのお子さんの様子に合わせ、話し合いを深め安全で分かりやすい環境を作っていく。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	40	4	3	0	・建物の老朽化は否めないが、きれいに掃除や整理整頓されていて快適に過ごせている。 ・トイレが少し寒いが、その他は心地よく過ごせている。 ・室内は暖かいが廊下、トイレがすごく寒い！夏はとても暑い！冬はトイレの便座も冷たくこどもが少しかわいそうだけど先生が便座シートを貼ってくれているのはよい。 ・冬のトイレが寒く手を洗うのも嫌がることがあった。 ・冬場のトイレ難しい。	・感染症予防のため、トイレも窓の開閉が必要だが、こどもが使用する際は開ける部分を少なくするなど配慮していく。	
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	40	5	0	2	・職員がこどもに接する姿を客観的に見てこどもの特性の気づきがたくさんあった。 ・こどもに合わせて写真やイラストを見せたり、声かけをしてもらえている。 ・十分とは言いきれない。 ・こどものことをよく理解したり理解しようとする、こどもの個性を大事にした支援をしている。	・一人ひとりのこどもと丁寧にかかわったり観察したりし、その子を知ることが大事にしている。また研修を受けることで専門性を高めていく。 ・こどもの特性、様子などを職員間で共有し、よりよい支援につなげていく。	
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	40	2	0	5	・支援プログラムについて自身が確認をしていないため分からない。	・支援プログラムについて案内をしていく。	
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	40	2	0	5	・こちらの要望をよく聞き、こどもの成長に合わせてその都度、計画を考えている。 ・成長してほしいと思うことを基に計画を作成してもらっている。 ・十分とは言いきれない。	・引き続き、懇談会などで保護者の思いを聞き、こどもの様子に合わせ、より良い支援ができるよう努める。	

適切な支援の提供	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	39	1	0	7	・記入内容を確認し適切だと思った。 ・こどもに合わせた細かい支援計画を作成してそれに添って支援している。	・一人ひとりのこどもに合わせた支援につながるようアセスメントを丁寧にを行い、日々の生活の様子を計画に入れ具体的に記載するように努める。 ・保護者の困り感やニーズにもしっかりと耳を傾け、保護者と一緒に支援を進められるように努める。地域支援やガイドラインについて保護者に分かりやすく知らせるように努める。
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	38	4	0	5	・こどもの成長をとて感じている。 ・思い通りにいかない部分もある。 ・計画が作成されたばかりなのでまだわからない。	・定期的にモニタリングや振り返りを行い、目標や支援の見直しをし、適切な支援を心がけていく。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	41	2	0	4	・ずっと同じではなくプログラムが変わることでこどものできること、できないこと、新たな面が見えて良い。 ・言語療法、音楽療法、作業療法、イベント、紙芝居などいろんな角度から支援し、こどもの成長に大いに役立っている。 ・毎月、季節に合わせたプログラムを入れたり、特別イベントがあるため工夫されている。 ・毎月、ちがった歌や手遊び、運動遊びなどをして飽きない。 ・一定期間でプログラムも変わって、季節に合った内容にもなっているよかった。	・こどもの様子に合わせてプログラム内容の統行、変更を毎週話し合い、その進め方、支援の仕方を細かく話し合う。
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	15	3	12	17	・交流する機会はない。 ・療育以外の場所はまだ不安があり行っていない。	・園庭開放の日程を掲示していく。
保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	47	0	0	0	・入園前に丁寧に説明があった。	・引き続き、分かりやすい言葉で保護者の方の様子を見ながら説明をしていく。
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	44	1	0	2	・丁寧に説明をしてもらった。	・こどもの様子に合わせ、保護者の方のニーズを受け止めつつ必要な支援やポイントを伝えるようにしている。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	35	1	1	10	・行われていたが日程が合わず参加できなかった。 ・個別懇談会等により、親も子育てに関して学ぶ機会があり、大変勉強になる。	・案内を掲示したり、その概要を伝えたりしていく。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	43	4	0	0	・悩みが新たにできても、職員と相談して方向性を決められたので助かった。 ・こどもの変化にすぐ気づいてもらえたり、相談しやすいため状況を共有しやすい。 ・細かい日常での変化なども丁寧に聞くなど配慮してもらっている。	・引き続き、こどもや保護者の心身の健康に気を配りながら支援していく。 - またこどもの姿を保護者と共有しながら支援を考えたり、成長を共に喜び合っていく。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	43	2	0	2	・いつでも子育てや悩みの相談に乗ってくれ、優しい言葉をかけてくれる。 ・色々な話を聞いてもらい本当に救われた。 ・悩んでいることを相談すると丁寧にアドバイスなどをもらえてありがたい。	・いつでも声のかけやすい雰囲気や環境に努め、面談が必要な際はその環境を用意していく。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	44	1	0	2	・こどもの成長と一緒に喜んだり、悩みを聞いて一緒に考えてもらいたい。 ・親の視点に立ち苦労や負担に寄り添いながら助言や支援をしている。 ・こどもの気持ちに寄り添って支援している。	・支援者として発達段階や支援の仕方を伝えながら、保護者の思いに寄り添えるよう努めていく。またこどもの成長を共に喜び合っていく。

保護者への説明等	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	27	9	0	11	・毎月の保護者会ではOBの方の話を聞く等勉強になり他の保護者との交流もあり楽しい。 ・毎月、季節のイベントが設定されており子どもたちがとても楽しんで参加できイベントを通して成長できている。 ・きょうだい向けのイベントはない。 ・イベントがあったようだが日程が合わず参加していないのでわからない。	保護者の方同士が交流し結びつきが増えるような場を設けたり、講師を呼び、発達や就園先のことについて学び、理解につながるようにしていく。
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	42	2	0	3	・何人も受け持っているため素早い対応とは言えない。 ・言語療法や、作業療法など専門職にも、相談をしてもいいと教えてもらった。 ・子どもに対して細かい要望も一つ一つ迅速、丁寧に対応してもらえる。	・今後も懇談会のことを園だよりで知らせると共に、個別に相談があった際は保育士間で連携を取り、場や時間を設けられるようにしていく。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているといますか。	45	0	0	2	・写真やイラストで子どもにも伝わりやすい工夫がされている。 ・細かく指導理由を示してもらえるので分かりやすく勉強になる。	・一人ひとりの子どもの様子に合わせた伝え方を保育士間で話し合い連携していく。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	32	4	0	11	・「たけのこだより」が毎月あり、大変役に立っている。 ・特になし。 ・自身がHPやSNSをチェックしていないので分からない。	・園だよりを通して、行事、活動等の案内の他、保護者が子どもの関わり方の視点のもちかた、関わり方方法など伝えていく。また緊急性のある要件はマチコミ、電話などで確実に伝わるようにしていく。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されているといますか。	44	1	0	2	・どのように留意されているか確認しようと思ったことがないので分からない。	・引き続き守秘義務の遵守、書類の管理を徹底していく。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	46	0	0	1	・皆で真面目に訓練する雰囲気があり有意義だと思った。 ・防犯訓練、防災訓練があり、合言葉や避難の仕方など丁寧に知られています。 ・マニュアルの場所は分からないが訓練はされている。	・避難が困難な場合に保育士に知らせてほしいことを話している。また訓練後、訓練内容に合わせて避難の仕方を再度、話をするようにしている。 ・各種マニュアルは事務所で閲覧できることを周知していく。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	47	0	0	0	・毎月訓練が行われている。	・引き続き毎月の避難訓練、防犯訓練の他、重大事故訓練、BCP訓練などを行い、振り返りを綿密にしている。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われているといますか。	45	1	0	1	・雪が降った際、来園時、注意するよう連絡があった。 ・床のマットやサークルの設置等安全に配慮されている。	・毎日の話し合いの中でヒヤリハットや子どもの怪我について振り返り、引き続き安全確保に努める。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされているといますか。	43	0	0	4	・友達とぶつかった時に見ていた先生がその時の状況を説明して冷やすなど迅速に対応してくれる。 ・職員間で報告や連絡を取り合い、対応している。 ・事故に巻き込まれたことがないので分からない。	・事故についての迅速な情報の共有に努め、再発防止に向けて何が必要か話し合うようにしていく。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	45	2	0	0	・少しずつ先生に心を開く様子が分かり、抱っこや着脱など、母以外の頼れる人がいる場所という認識がある。 ・子どもも職員のことが大好きで安心感を感じている。 ・嫌がる場合もあるので何とも言えない。行きたくない時もあると思う。 ・子どもが先生方に心を開いており信頼感を抱いてますので安心して通えている。	・一人ひとりの様子に合わせてかわり、気持ちを受けとめたり共に遊びを楽しんだりするなかで信頼関係を築き、引き続き安心して通えるようにしていく。

満足度	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	43	3	0	1	・活動の後は帰りたくない様子の時もあり、楽しいのだと思う。 ・自分からアピールしない子が「たけのご園行こうか」と言うなど楽しみにしている。 ・園で覚えた歌や手遊びを家でもやっている。 ・時々嫌がる時もある。 ・毎回、職員がたくさん遊んでくれ、おもちゃも充実しているので喜んで通っている。	・こどもが安心して通所できるように活動や遊びの環境設定をしていく。一人ひとりのこどもの得意、不得意、好き、嫌いなどを把握し保育士間で共通理解をしていき丁寧にかかわっていく。
	29	事業所の支援に満足していますか。	46	1	0	0	・たけのご園に通えて本当に良かった。 ・成長したことが多く通わせてよかった。 ・全て満足とは言えない ・事業所の存在を心強く思っている。 ・大変満足している。先生方には感謝している。	・今後もこどもの様子や保護者のニーズに合わせた運営ができるように努めていく。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		一宮市たけのご園		公表日		2025年3月26日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	10	0	・人数増加に合わせて2部屋使用し人数差がある時には人数調整をし均等になるようにしている。	・月毎に人数が増加。利用定員とスペースは適切であるが、弟妹同伴のため安全確保が必要である。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	5	・契約数に合わせた適切な職員配置を行っている。 ・親子人数やこどもの状況、予定に合わせた職員の配置の確認をしている。	・個別のかかわりや弟妹への対応が必要な時には職員が足りないと感じる。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	10	0	・「動線を短くする」「絵カードを使用し流れをわかりやすくする」「段差にマットや板を置く」「滑りやすい場所や玩具の下に滑り止めを設置する」など、わかりやすく安全な環境作りに努めている。	・継続していく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	10	0	・定期的な玩具や室内の消毒、施設内外の見回りの実施、療育中の環境（玩具なし）など、安全管理を実施している。	・感染症が流行した時には消毒や換気を徹底していく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9	1	・集団療育、言語療法や担当保育士と1対1で遊ぶなど集団と個別の部屋を分けている。 ・状況に応じて個別に対応できるようにこどもの状況に合わせて部屋を移動している。	・親子の状況に応じた対応や環境作りをしていく。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	10	0	・開始前は活動の確認、終了後は気づき、反省、評価、把握すべき物事、親子の状況を伝え合い、共通理解を徹底している。 ・全職員が周知できるように、特に大事なことは全職員が揃っている時間帯に伝え合うように努めている。	・休暇職員や勤務時間帯の違う職員が話し合いの内容を把握できるように、各職員が意識していく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10	0	・保護者評価表を全職員が把握できるように、ファイルが閲覧できるよう設置している。	・引き続き保護者向け評価表の結果を基に改善に向け話し合いや見直しを行っている。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10	0	・毎日のカンファレンスや折に触れて、職員の目標や反省点など伝え合う場を設けている。	・時間を意識しながら、要点を絞って話し合いをし内容を深めていく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	10	・現在は行っていない。	・今後、必要な事案があった場合には、上司に相談し行っていく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	10	0	・課内開催研修に職員が多く参加できるようにしている。 ・外部の研修にも希望者は参加している。 ・園内研修は様々な内容で行っている。	・研修開催や参加が難しい時期がある。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	10	0	・利用保護者にとってわかりやすい文章にして公表している。	・継続していく。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	10	0	・保護者の思いだけでなく、こどもの発達段階に合わせた支援計画になるように丁寧なアセスメントをしている。	・継続していく。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	10	0	・保護者の意向を受けとめながらも低年齢のこどもにわかりやすい支援内容となるよう作成している。全職員がこどもに対して共通理解をし必要な場合には同じ対応をするように周知している。	・全職員を含めての話し合いの確保が難しい時もあるが、必要に応じて一人一人の子どもの状況を具体的に話し合うようにしている。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9	1	・いつでも回覧及び確認することができ、職員間で情報を共有している。	・利用人数が増える後半は共有する時間確保が難しいこともある。

適切な支援の提供	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8	2	・新版k式発達検査や発達プロフィールを使用している。 ・氷山モデルの考えを適用したり、五領域を意識した記録を取ったりして、様々な視点からこどもを観察するようにしている。	・スモールステップで進められるよう1か月ごとのねらいを保護者と担当が相談して決定しているが、ねらいの内容は生活面が多いため、職員間で周知し適切な支援につなげていく。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	10	0	・「本人支援」「家族支援」「移行支援」の内容を共通理解した上で、一人一人の発達段階、状況に合わせた支援内容を設定している。	・「地域支援・連携」は今後、工夫が必要である。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	10	0	・週に1度全職員での話し合いにより、活動内容を決定している。毎日の振り返りを基にこどもの姿に合わせて、プログラムを考えている。話し合いは職員が共通理解できるようホワイトボードを活用するなど工夫している。	・継続していく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	10	0	・季節を取り入れた行事を開催したり、こどもの姿に合わせた活動にするなど柔軟に対応したりし、こどもが楽しく、意欲的に参加できるようにしている。	・2クラスで活動し年齢や発達段階が違うこどもが混在しているため、活動内容が発達段階に合っているか、カンファレンスで話題に取り上げ、見直し、改善に努めていく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	10	0	・生活面に関しては個別にかかわる内容とし、社会性に関しては集団の中で育む内容にして支援計画を作成している。 ・個別プログラムも適宜行い、記録から育ちを読み取り、その後のかわりなどへの手立てとしている。	・個別に丁寧にかかわる際、時間と職員人数不足を感じる時があるため、無理なく進めていけるよう職員間で連携していく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	10	0	・前日からの変更点、活動内容の共通理解、個別の配慮が必要な状況、きょうだいの人数把握等の確認をしている。その日に保護者に伝える内容、食事、戸外遊び時の担当職員を決定するなどの話し合い、職員間で連携している。	・2クラスあるため各クラスの職員で話し合いをしているが、時間確保が必要である。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	10	0	・ヒヤリハット、傷病場面の共有、親子の様子、こどもの変化を伝え合っている。 ・保護者に相談されたことを担当の意見だけでなく職員で話し合うことで共有し、保護者に伝え、全職員が共通理解で支援していけるようにしている。	・保護者の相談によっては早急に話し合う必要がある内容もあるため、職員間で連携をとっていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	10	0	・個人の支援については個別療育記録に五領域を意識して項目ごとに記録し支援が偏らないようにしている。全職員周知が必要な内容は会議用紙に記載している。	・継続していく。
関係機関や保護者との連携	23	定期的なモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	10	0	・変化・成長などを日々、保護者と伝え合い、1か月毎の「月のねらい」を考え、スモールステップで進めていけるようにしている。3か月毎にモニタリングを行っている。	・引き続き話し合いの時間確保に努めていく。
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	0	10	・医療療育総合センター開催『親子療育の家』への情報提供を電話で行うなど、必要に応じた対応をしている。	・セルフプランでの利用のため担当者会議に参加することはないが、併行通園児もいるため必要に応じ会議に参画していく。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	10	0	・障害児等療育支援事業で地域の施設職員に連携を取りやすくするため参加を依頼している。	・継続していく。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	10	0	・併行通園児や一時保育利用児に対して園での様子を伝え合っている。 ・就園後に各園へ訪問し、子どもの様子を観察したり、自園での姿を伝えたりしている。	・今後もインクルージョン推進の観点から、保育園などと連携を気軽にし合えるような関係作りに努めていく。

関係機関や保護者との連携	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	0	10	・該当児なし。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	9	1	・児童発達支援センター職員に講演を依頼している。(保護者に伝えてほしい内容、保護者が学びたい内容) ・巡回訪問でケース児を挙げ、職員会議に児童発達支援センター職員に参加してもらうなど工夫している。	・巡回訪問依頼を継続していく。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	2	8	・園庭開放に出かけられるよう園庭開放日を掲示したり、園庭開放日が不明な場合は直接問い合わせる事をアドバイスしたりしている。	・親子で利用する事業所のため地域交流は難しいが、子育て支援センターや児童館の幼児教室、各園の園庭開放実施を伝えていく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	10	0	・利用日に必ず声をかけこどもの家庭の様子について話そうに心がけている。 ・保護者と同じ場面や状況を共有し合いこどもの良い点や課題について伝え合えるようにしている。	・継続していく。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	10	0	・ペアプログラムを掲示し参加を募ったり、園内で講演会を数回開催したりしている。 ・地域の保護者向け研修は掲示し案内している。	・継続していく。
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	10	0	・契約時に丁寧に説明をしている。	・継続していく。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	10	0	・アセスメントシート、日頃の姿など丁寧に聞き取り、こどもの現在の発達段階を考慮している。保護者の意向も受け入れながら"こどもにとって"という視点を大事に作成している。	・継続していく。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	10	0	・書面を示し項目ごとに、具体的な例を挙げたり支援方法を行って見せたりし、説明してから同意を得ている。	・同時期に何人もの説明が必要な時には時間配分、利用日を考慮していく。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	10	0	・入園時、就園先を決める時期、利用終了前など必要に応じ随時、懇談をしている。保護者の表情、様子など気になる姿があった時には声をかけ懇談をしている。	・自分から言い出せない保護者には発信しやすいような雰囲気を作っていく。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	10	0	・毎月、親子分離をし保護者が集まって保護者交流会を開催。(座談会、講演会など) ・卒園児の保護者が主催している交流会もあり、毎年在園保護者への説明をする機会をつくっている。	・保護者からのきょうだいについての相談には対応している。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	10	0	・家族からの相談は迅速に対応したり悩みに対して職員間で話し合い保護者にフィードバックしたりしている。	・継続していく。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	10	0	・毎月、園だよりを配布し行事、活動概要などを発信している。 ・アプリを活用し行事変更、積雪時の園周辺状況、保護者全員周知が必要なことは配信している	・継続していく。

保護者への説明等	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	10	0	・個人情報の扱う際の注意や、守秘義務について全職員が留意できるよう、定期的に話題にあげ対応している。	・書類の管理や職員の意識作りに引き続き努めていく。
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	10	0	・親子通園のため保護者、子ども、職員のかかわりの中で促しを行ったり、見本を見せたりしている。絵カードで1日の流れを掲示し、親子で確認できるようにしている。一人ひとりに合わせて写真や絵カードを利用してわかりやすくし、保護者と共通理解して使用している	・継続していく。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	5	・地域のボランティアの方に紙芝居の読み聞かせをしてもらったり、親子分離時に子どもと遊んでもらったりする機会を設けている。	・地域住民に開かれた事業運営も必要だが家庭の事情もあるため、慎重に検討していく。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	10	0	・マニュアルは全て策定し、職員には配布したり設置したりし、いつでも見られるようにしている。 ・親子と職員で毎月、避難訓練、防犯訓練を行っている。	・職員のための訓練において、必要に応じて親子を含めての訓練が行なえるようにしていく。 ・引き続き、親子の参加回数を把握し、参加していない親子への呼びかけをしていく。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	10	0	・災害の想定をして職員と訓練し、様々な疑問、必要な物事を全職員が意見や気付きを伝え合っている。	・定期的に職員の訓練をする時間を作っていく。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	10	0	・子どもの健康面については、聞き取りや書面にて確認しており、全職員へ周知している。	・親子で利用するため服薬や予防接種についての詳細は確認していないが、療育に必要な情報に関しては今後も共有していく。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7	3	・食物アレルギーの有無は必ず確認している。アレルギーがある場合は、食事の机や掃除などについて保護者と事前に話し合っている。弁当持参で親子一緒に食事をするため指示書の提出は求めている。	・重篤なアレルギー症状が出る児がいる場合は別室で食事をする対応も考えていく。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	10	0	・避難、防犯、重大事故などの訓練を定期的に実施し評価反省をしている。玩具、遊具の破損、危険個所の点検をし迅速に対応している。	・今後も全職員で意識して安全管理をしていく。
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	10	0	・訓練をする日には事前に訓練内容を伝えている。 ・非常事態が起きて帰宅できない場合なども想定して、家族と話し合うなど対応を考えておくよう伝えている。	・緊急避難場所などがわからない保護者もいる。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	10	0	・療育後、必ず職員でその日のヒヤリハットを出し合い共有している。危険回避を話し合い、安全を確保したり、遊具、用具の設定を変更したりしている。ヒヤリハットを記録し安全につなげるようにしている。	・継続していく。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	10	0	・虐待防止に関する研修への参加やセルフチェックの実施を行っており、それらに基づいて話し合い、気づきを共有している。また、具体例を挙げ虐待行為に当たらないか日々話し合っている。	・継続していく。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	10	0	・契約時に身体拘束同意書にて丁寧に説明をしている。トイレの施設をする時には安全のためと伝え了解してもらっている。	・継続していく。